磐城日日

所行發
磐城日日新聞社
福島縣磐城市渚廻51
電話387番
編集兼發行人 比佐不二夫

チケット利用下さい
新設電話919

脚光浴びる磐城海岸

磐城市で縣立公園指定を申請

磐城市では今夏の海水浴客から非常な絶讃と推賞を受けた江名、小名濱、八崎に至る磐城海岸一帯の景勝を廣く縣下に紹介しようと縣立指定公園の申請をする事になり、縣觀光計畫課田中主事は現地視察のため三日午後一時來市し二日に亘つて各地を踏査の上、公園委員会に報告する事になり、觀光磐城もこゝに大きく脚光を浴びるに至つた。

縣立指定公園の申請は江名町時代から行はれて來たものではあるが、既に波立藥師海岸から新舞子、豐間海岸にかけて縣立公園に指定されているがこれに続く江名から泉にかける海岸線には全國屈指の漁港江名、中之作両港を抱き、眺望絶通された江名鉄道は春花秋葉の山と白砂銀波を縫つて下神白海岸、伝説にも情緒豊かなあわび石かぶと石、八崎のしぶき散る波間に大平洋を掌觀し、遠く阿武隈を映すところは明治文壇の巨匠大町桂月をして感嘆久しくさせたもので、洋中に孤立する照島に竣立する黑壁の奇景をも加えて地に埋れさすにはあまりにも惜しい絶景であり、縣立公園指定により開發に大きな期待が寄せられている

六三ミリのにわか雨

この分なら二百二十日も無事

二日午前から三日午後にかけて磐城地方を襲つた大雨は見ているが一日で六二、八ミリを記録しておりものすごい〝ニワカ雨〟と言うべき程度だと小名濱測候所で稲作も現在殆どが出穂前で被害は見られない模様、唯ぐつついた天候が長く続いて晴天にシュウ雨があるとそろ〳〵開花期に向う中生稲に相當の被害も憂慮されている

小名浜測候所の話

二日の様な大雨は當分考

磐城警察署が投書箱を管内約二十ケ所に設けて大いに民意を聽しようと云う試みを企画して齋藤署長さんは「民主警察署長ぶりを」を發揮したつもりで悦に入つている。

磐城署を例にとつてみても三十八名の署員が五万八千の人間の治安維持に當るのであるから一般社会人の協力なくしてはとうてい期し得ない事は勿論である。

そこで警察の存在を一寸考えて見ると吾々はヨチ〳〵の時分からお巡りさんは「コワイ」ものと植え付けられて來た、これは強力な權力（それは牢獄と云う自由剝奪の恐怖と犯罪人と云う前科者と云う社会通念的指弾によつて裏打ちされている）によつて悪に対する恐威心によつて人間を善に導くより、悪に近寄らせぬ性格にあつた。

民主と云う流行語をつけた現警察は優しい親切なお巡りさん、そして一旦悪に対すれば勇猛果敢、身をもつて社会を守る悪剛善柔のお巡りさんに變ボーして來たこゝにある筈である、唯大衆の意見を聽くと云う戰後の流行に乘つて投書箱と云うのは隨分と見られる様に前科者と云う社会通念的指ではなくして、吾々が安心なつたが、これが非常な成功を收めたと云う事實を聞えられないが、ぐずついた天氣が続き、カラツとした晴天はのぞめないなお硫黄島沖に發生している台風十號は進路を北々東にとつてゆつくり進んでいるが中心風速で二十米程度で本土に達する迄には消滅するものと樂觀され二百十日に続く二百二十日も〳〵の分で行けば安心となつている。

張主

投書箱を活用せよ

比佐凡風

の維持をお巡りさんにお願いた事が無い、今度の企画ベーションに終らなければ民主警察ぶりのマスターも民主警察ぶりの考え方である。

なれば當然吾々は吾々の生活と社會を守る爲に協力し吾々は終らせぬ様に協力を惜します、警察が目を回す位これを活用すべきです、殊にヒロポンに關する限りの密告は大いにこれを利用して吾々の社会からヒロポンのヒの字も根絶やしすると云う決意を持ちたい、婦人会、青年會等もその決議をして大いにこれを推進したいものである。

相子島問題は無事解決

もみにもんで紛爭を続けて來た磐城市相子島部落対大

市内二十ケ所に投書箱

磐城署で市民の協力要望

磐城警察署（署長齋藤市彌）ではこの程市内二十ケ所に投書箱を備え付けて民意を聽し、眞に民主警察の名を發揮しようと計画している、同署ではかねてから一般市民の協力による治安維持の確立を図つて來たが署内に座つていては民意を知る事が出來ないと投書箱の設置案が出たもので、対策强化に努めているヒロポンに対する協力は勿論、一般捜査、更に治安に対する意見などを聽して行きたいとこの投書箱の活用を强く希望している。

原部落の水騒動は大原部落が調停委員会案を諒承したため出水の被害を見ずに無事解決され、一日午後一時から調停委員立会の上で長さ五間、巾五尺に亘つて埋沒された問題の排水溝が爭いの起る前の狀態に堀り起こされて、今後は三者一体となり恒久的な排水溝の実現に努力する事になつた。

天皇杯野球は五チーム

天皇杯爭奪軟式野球石城地區予選は四、五の両日地區五チームによつて平工高グランドに競覇される事になつた、組合せは次の通り

(一)全小名浜——常磐製作所（四日午後三時）

(二)戸部礦業——小田炭礦（五日午後一時）

(三)の勝者——品川白練瓦（五日午後三時）

経費をかけずに良い品安く

旅行とスポーツの秋

野球帽 メトロ庭球帽 ミルキ
旅行セット ボストン 手提鞄
運動シャツ 男女トレズボン
ハンドバック ナイロン靴下
婦人バンド 紳士バンド 各種
サンダル バンプス 半パス

毛糸新入荷

群羊毛糸 1封度 1200圓
カネボー 1封度 1600圓
化粧品 柳屋 メヌマ ジュジュ・ウテナ 80圓
フトンの手入丈夫な夜具地

チケット歓迎

平マーケット

小名濱第二小学校前電

極上白一貫目 一三〇〇圓
白一級一貫目 一〇〇〇圓
赤一級一貫目 七五〇圓
皆様の店 ちどりフトン綿

文具界の一流品

ライトインキ
エリオット万年筆
ヨット鉛筆
御愛用を

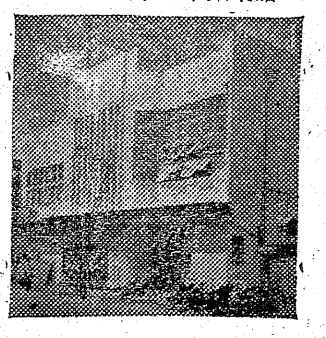
魁文堂

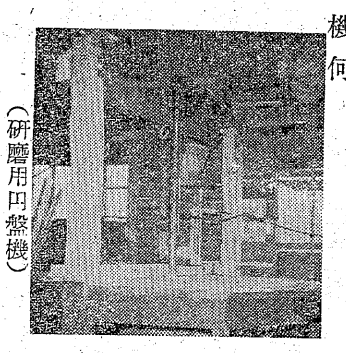
平市才槌小路

大理石テラゾーは近代建築の華

躍飛大産生化機何
い下さ命用卒御

テラゾーを使用した豪華な平聚樂館





（研磨用円盤機）

墓碑・石藏・大理石・一般販賣

吉田石材工業所

常磐線泉駅前電話五四番

小名濱營業所開設御知らせ

營業所 磐城市本町四八電話六三番
所長 黑沢梅次

【營業課目】
◎定期トラック
◎貸切トラック
◎鉄道貨物取扱
◎梱包荷造
◎海上、貨物取扱
◎小運搬業

大和運輸株式會社

【營業路線】
東京、仙台、山形、宇都宮、前橋、高崎、長野、千葉、銚子、横浜、小田原、静岡、甲府、松本、名古屋、津、宇治山田、大阪、神戸

本社 東京都中央區銀座東二丁目
電話京橋(56)二一八一—五番

農藥飲んで親子心中

百姓ざらいが幼兒も道連れ

百性嫌いの親父が新農藥でいるすきに長女の節子ちやた實弟仁君の制止も聞かず自殺を図り誤つて愛兒までん（二才）が這つて來て机の上に約十CCを呑み下し午後道連れにしたと云う不詳事七時四十分頃絶命したものをひき起して社會のヒンシ上にこぼれていた同藥をなめた爲ケイレンを起し、妻ユクを買つている。

磐城市大字下川、字田宿一八二農業江尻光雄（三一）は一町六反の耕地を有する中流農家でありながらかねてから百性嫌いで去る八月十六日頃家人に無斷で上京し就職口を求めたが思うまゝにならず一日夜歸京し、自宅に歸らず同字の姉の家に泊り、親戚中から種々意見されて二日歸宅したが家人にも良い顏されず同日午後六時四十分頃勝手から農藥ニッカリンT（致死量五CC）百CC入れの瓶を持ち出し、自殺を企てようとしているのを同人の妻ヒサ子（三〇）さんが發見、コップに這入つていた藥を庭に捨てようとした所抱いていた二男の久好君（六ケ月）の腹に かゝり驚いて水で洗つて

のヒサ子さんは父の覺さん（六一）と共に泉駅前小林醫院にかつぎこんだが節子ちやんは既にとと切れていたその留守に光雄は再びニッカリンTを持ち出し發見し

消防署職員を五名募集

磐城市では市消防職員を五名募集する事になつた。應募資格は新制中学卒業又は縣及び縣信連のすゝめにはこれと同等の学力を有する滿十八才以上三十才までの男子で、布望者は十三日まで市役所庶務課宛願書を提出の事。

採用試験は十五日午前九時から小名浜公民館で行われる。

詳細は市庶務課又は市消防署に問合せの事。

婦人貯蓄組合を

デフレ乘切りに小名漁協

小名浜漁業組合では同組合より同組合内にもこの様な員の奥さんに呼かけ小名浜漁業協同組合婦人貯蓄組合を結成する事を図つたこれ貯蓄團体を作り、全國的に襲つているデフレの波を乘り切ろうとするもので、二日午前九時より同組合会議室に發起人會を開き婦人貯蓄組合設立委員を任命し、続いてこの組合の内容の説明を縣信連の係員が行ない午後散會、同組合の設立を約した。

『惡』寸前に救われる

小名浜に憧れた家出三少年

就職難が深刻を極めて來ると青少年の希望がなくなつて來る、これが惡えの第一歩である。

農村の二、三男が小名濱え行けば何とかなるだろうと莫然とした希望から三人が無斷で家出し、僅かな持金も使い果して途方に暮れているのを助け上げ何くれと心配して親元に返してやつた近頃心温る話がある。

安達郡二本松町本多忠氏さ子寮内Aさん（四三）の娘惠子て來たが金が足りず、湯本一九から小名濱の話を聞きから小名浜まで歩いて腹を空かし、やつとこさ惠子さん二男勇君（一七）、同郡岳下小名濱へ行けば希望の持て村管野芳二郎さん三男伝君る生活、就職が出來るかもんの實家である母子寮を尋（一八）、同村会川章さん五男知れないと憧れ、一日朝祕ねあてなから夕方の五時頃文夫君（一八）の三人は二本松たどりついたが、賴りにし

で働いてる磐城市小名浜母かに小使いを持つて家出し

想隨　盆おどり雜考

春海太郎

虫の音の繁さと共に夏も終り、街に村に夏の夜の涼味を懷かしませる盆踊りの太皷の音も聞かれなくなつて來た。

近年來の盆踊りをかえり見ると終戰直後の隆盛から衰微の一途を辿り、この分で行くと來年は完全に姿を消ししてまうのではないかと悲しまれる。

一時の盆踊りは確かに好まれ、しからぬ風潮はあつたが、これをもつて盆踊りそのものを否定し、完全に姿を消して終う事を喜ぶわけには見る行かない。

しかも今年あたりの盆踊りをどりと何處も此處も觀る者ばかり、この分で踊る者が無い、盆おどりで踊る者が無い、盆おは觀るものじやなくておど野卑になる、これじや樂してむところが身がつまる思いて樂しむものにして終つたのは猫もシャク子もやり出した、懸賞付假裝〃と云うや奴である。

素顏でおどる方がはずかしいと云う片輪な現象を生んではおどる者が無くなるのも道理である、おどつて樂しめる盆おどりがなくなれば盆おどりそのものも無くなつて終う。

それから雰圍氣が全然イタダケマセン、フー刺、ユーモア、酒落も度を過ぎれば拔いた輕味を充分に樂ませて來たければ必ずよい就職口を見つけであげますからと激ましていた

ば終戰直後の盛盛から衰

ば終戰直後の隆盛から衰

ば終戰直後の隆盛から衰

ば終戰直後の隆